

令和6年度 第2回大山崎町社会教育委員会会議（報告）

- I 日 時 : 令和6年8月27日(火) 午後3時30分～同4時50分
II 場 所 : 大山崎町役場 3階 中会議室
III 出席者 : 14名
○ 出席委員（6名）
○ 事務局（8名）
IV 会議名 : 令和6年度第2回大山崎町社会教育委員会会議
V 内 容 : 以下のとおり

【要点】

2件の議題（(1) 令和6年度生涯学習課関係事業報告について、(2) 令和6年度社会教育委員会会議関係事業報告について）について、審議のうえ、いずれも承認された。

また、事務局から3件の報告を行った。なお、傍聴希望者はなかった。

1 開 会 事務局

2 教育長あいさつ

3 委員長あいさつ

※ 大山崎町社会教育委員会会議運営規則による会議成立の宣言（定足数を満たす6名の委員の出席を確認）

4 議 題

※ 以降の進行は委員長が担当

(1) 令和6年度生涯学習課関係事業報告について 事務局
事務局から令和6年度（4月1日～8月15日）の生涯学習課関係の事業実績について報告

* 質疑応答

< 岩崎運動広場のフットサル利用について >

委員

岩崎運動広場では、現在フットサルは利用不可となっているとのことですが、何か理由があるのでしょうか。利用希望者はどうですか。

事務局

岩崎運動広場コートネット下の一部が捲れ上がっており、フットサルについては、足を引っかけて怪我をする恐れがあるため利用を中止しており、利用希望者にもお断りしています。テニスについては、ネット下の部分でプレーに影響がないため利用できる状況です。

<中央公民館の夏の自習室について>

委員

夏の自習室は利用者が多ければよいなと思っています。高校生も利用できるということですが、7月23日から31日までの利用者12名のうち、高校生は何人でしょうか。

事務局

本日、中央公民館長は欠席させていただいておりますが、年齢別の集計までは取っておりません。

<ときめきチャレンジ推進事業「ミニ三角縁神獣鏡づくり」について>

委員

6月22日に開催された「ミニ三角縁神獣鏡づくり」では、実際に鉄を溶かしたのでしょうか。鉄を溶かすためには高温が必要で、子どもたちが火傷をしないよう注意が必要ですが、どのようにされたのでしょうか。また、子どもたちはどのような作業をしたのでしょうか。

事務局

フライパンで熱して溶けるような特殊な金属を、鋳型に流し込んで固めるという流れで作りました。子どもたちは、フライパンから鋳型に流し込み、固まると鏡になる部分をきれいに磨く作業をしました。なお、当日は、講師として山城郷土資料館から学芸員の方に協力いただきました。

<民設民営放課後児童クラブ「さくらっこみらいクラブ」について>

委員

7月22日に第二大山崎小学校の近くに開設された「さくらっこみらいクラブ」について、入会児童のうち8人は大山崎小学校区ということですが、子どもが通うには随分遠いように感じます。子どもたちだけで通うのでしょうか。

事務局

さくらっこみらいクラブの大山崎小学校区の利用児童は、同クラブがバスで送迎を行っておられ、夏休みは自宅からの登所でしたが、2学期からは大山崎小学校正門に児童が集まり、送迎が行われる予定と聞いております。

委員

さくらっこみらいクラブは、放課後児童クラブ（学童保育）に入れなかった児

童が利用しているのですか。

事務局

さくらっこみらいクラブも、放課後児童クラブ（学童保育）の1か所で、これまで町が運営してきた放課後児童クラブに加えて、社会福祉法人端山園が新たに同クラブを開設されたものであり、どちらかを選択して利用されています。

委員

放課後マイプレイスも利用されたらよいのではないかと思うのですが。

事務局

おかげさまで、放課後マイプレイスの利用児童も増えており、放課後の児童の一定の受け皿にはなっているものと思っておりますが、一方で、放課後マイプレイスは午後5時までであり、仕事でその時間には帰ることができないという保護者は、やはり放課後児童クラブの方を選ばれることになると思います。

<放課後マイプレイスで使用する家庭科室について>

委員

放課後マイプレイスの料理教室のため、両小学校の家庭科室を使わせていただいておりますが、調理する場所としてきれいとは言い難く、コンロなどの道具も非常に古く、一部欠けた机もあります。このような家庭科室で、子どもたちに「食育」することができるのか心配です。本来、家庭科室は一番きれいであって欲しい場所だと思います。もう少し、子どもたちが食べることに関心を持ってもらえる場所になればいいのにと感じます。

事務局

現在、学校で調理実習がどのように行われているか、詳細は把握しておりませんが、施設全般としては、家庭科室に限らず、例えば、理科室の実験器具も40年以上経過しており、他にも建物としての改修が必要な場所、更新しなければならない備品があります。予算の制限がある中で、学校が優先順位を付け、計画的に改修・更新できるよう、適切に予算を確保していこうとしているところです。

学校施設そのものについては、これから少子化を迎える中で、果たして建て替えるのがよいのかという議論もあり、今後、既存建物の外側は活用して内側をリフォームする計画も考えなければならない段階にあります。その中で、給食に関しては、ようやく給食室の改修が終わり、厚生労働省の定める基準に適合した施設で給食を提供できるようになりました。ハード面は町教育委員会としての課題ですが、ソフト面ではさまざまな方法をご提案いただければ幸いです。

<第二大山崎小学校の児童数について>

委員

少子化が言われていますが、第二大山崎小学校では、町営の放課後児童クラブの児童数が増え、7月に開設されたさくらっこみらいクラブにも27人の児童が入

会していますので、児童は随分増えているように見えますね。

事務局

補足させていただきますと、4月当初のでっかいクラブ入会児童数134人のうち、20人弱はさくらっこみらいクラブに移る形で入会していますので、一部は重複しています。

◎各委員が承認

(2) 令和6年度社会教育委員会議関係事業報告について

事務局

事務局から令和6年度（4月1日～8月20日）の社会教育委員会議関係の事業実績について報告

<乙訓社会教育委員等連絡協議会総会・研修会（6月4日）について>

委員

日本電産のビルの中にある永守コレクションギャラリーを見学しました。日本電産が、精密機械工業の盛んな長野県のオルゴールメーカー事業を買取ったのがきっかけだそうで、本当に珍しくとてもきれいなギャラリーでした。

委員

普段見られないようなものを見学させていただき、よかったです。

委員

よくこれだけ古いものを集めたなと思いました。本当に精巧にできていました。200年から300年前に作られたものが、いまだに動くというのはすごいですね。彫刻などは剥げて、傷んでいる状態もありましたが、音だけはしっかり出ていました。

<京都府社会教育委員連絡協議会総会（6月28日）について>

委員

演題の「ウェルビーイング」ですが、“ウェル”は良いという意味で“ビーイング”はそれを継続していく、その状態のことを言うのだそうで、幸せや生きがいという意味だと教わりました。

講演の中で、一つ気になったのが、所得と満足度の相関関係を表す資料で、現代の日本では、7割の人が所得よりもむしろ心の豊かさやゆとりのある生活を望んでいるという話でした。たとえお給料をたくさんもらえても、満足度は違うという面白いお話を聞かせていただきました。

それから、飯田市のりんご並木まちづくりや、吹田のふれあい交流センター、芦屋の中学生が中心に活動しているクリーングループ・ジュニアの実践例の紹介もありました。

委員

「ウェルビーイング」というのは、今回の近畿地区社会教育研究大会のテーマにもなっておりますね。最近は、とにかくカタカナの言葉が増えて、どういう意味だったかと振り返ることが多くなりました。もう少しわかりやすい言葉がないものかなと思います。

講演の中では、「市民参加」から「行政参加」へ、「トップダウン」でなく「ボトムアップ」で、というお話は、その通りだなと思いながら聞いていました。

委員

断片的ですが、「摩擦や軋轢を解決するためには対話するしかない」「物事がうまくいかないときは「俺は聞いていない」と言う人が出て後ろ向きになってしまう」というお話が印象に残りました。全体的には、学者の方がテーマとして研究されている内容で、なかなか理解するのが難しかったです。

委員

私も同じお話が気になりました。ある人が「そんなことは聞いていない」と言ったら、もうそこで話が進まなくなってしまう。実際には、聞いているのですが、そういう言い方でストップをかけてしまう。それを打開する方法として、講師の方は、一度でいいから来て欲しいと声を掛ける、あるいは報告するだけでも意味があり、一度顔を合わせると次は話が比較的スムーズに進むようになると話されました。事前の働きかけがあってこそ、年代や立場を超えて協力関係を築くことができるのだろうなと思いました。

<京都府社会教育・生涯学習・公民館等指導者研修会（7月16日）について>

委員

公民館事業は、小・中・高校生の利用が少なく、どうしたら子どもたちが参加するのか、が課題になっているとのことでした。講演では、高校生を対象に“私の参加によって社会現象が変わるか”というテーマのアンケートをとったら、日本では、「ボランティアをやってみよう」という人は少なく、「何をやっても無駄だろう」という人が多いということでした。アメリカやドイツ、スウェーデンでは、半分以上の高校生がボランティア精神を持っているそうです。

特に、私が面白いと思ったのは、スケートボードチームのNPO法人ASKの話でした。スケートボードはパリ五輪で有名になりましたが、高校生が中心になって多額の寄付を集めて、スケートボードパークを設置しようとしているそうで、すごく頑張っているなと思いました。

委員

講演では、神戸市垂水区の活動も紹介されました。社会福祉協議会に高校生1人を入れているそうです。若者に意見を求め、積極的に取り上げるという特徴的な取組で、高校生に経費のことも考えさせるのだと話しておられました。

それから、子供食堂はあるけれども、子ども食堂で1人きりで食べている孤食

という問題や、尼崎市の中・高校生を対象とする食堂をつくる活動例が紹介されました。若者の声を聞くのではなく、若者の声を聞きに行くのだ、というお話もされていました。

委員

今回の研修会には、婦人会・女性会から多数参加されていて、グループワークでは、婦人会・女性会の活動のお話を伺いました。

<近畿地区社会教育研究大会について>

委員

8月19日に実行委員会があり、京都テルサへ会場の下見も兼ねて行ってきました。参加申込状況は、8月19日現在で717人で、京都府からは205人参加予定です。心配なのは台風ですが、何とか無事に開催できるよう祈っています。

◎各委員が承認

5 その他

事務局

※ 以降の進行は事務局が担当

事務局から次の3件について報告

- ① 町議会定例会（6月）における一般質問・答弁について（生涯学習課関係）
- ② 大山崎町教育委員会事業報告書（令和5年度対象）について
- ③ 町民体育祭の開催について

6 閉会あいさつ